

---

# 友達ライダー！～来たれ！仮面ライダー部！～

夜風 紅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

友達ライダー！〜来たれ！仮面ライダー部！〜

### 【Nコード】

N4804X

### 【作者名】

夜風 紅

### 【あらすじ】

あらすじ

月面基地ラビットハッチ。ある日、如月弦太郎は謎の不審者（と書いて鳴滝と読む）にある装置を貰う。

そこから行き来するのはオリジ、リイマジを含めた仮面ライダー！

？時々変なもの混じりながらドタバタ騒ぎ！！

さあ、今日も月では何が起こっているのか。

そして、弦太郎は何人友達を作れるのか！

あ、そこ！月見上げても分かんないからね！

基本的にキャラが壊れております。ご了承ください。

## 1話 友？達？戦？士（前書き）

これを書いたのが6話前だったため、JKは出てきません。次回から出す予定です。

## 1話 友？達？戦？士

（月面基地ラビットハッチ）

賢吾「如月イイイイイイイ！?!?!?!?!」

弦太朗「ギャアアアアア!?ごめんなさい!ごめんなさい!ごめんなさい!ごめんなさい!」

美羽「……何がどうなってるのかしら?」 さっき来た

ユウキ「……実は」

（数分前）

弦太朗「なかなかおもしろそうだな!これ」

ユウキ「弦ちゃん。何してんの?」

弦太朗「おう!ユウキか!見てくれこれ!」

ユウキ「何々……。トモダチワープマシン?なんかダサいね」

弦太朗「実はな、これ……」

賢吾「何をやっているんだ?」

ユウキ「あ、賢吾くん」

弦太朗「よう!賢吾!お前も見ろよ!これ」

賢吾「……興味ないな……」

弦太朗「そう言うなよ。これな、他のライダーをここに呼び寄せる機械らしくて、異世界の奴らも呼び寄せることができるらしいぜ！」

ユウキ「ふえっ、すごい！」

賢吾「……ちなみに一つ聞くが、それ、どこで手に入れた？」

弦太朗「貰ったんだ」

ユウキ「貰った？」

弦太朗「そう、なんかさつきここ来たら、変なおっさんがいてな、おのれデイケイドとか言いながらこれくれた」

ユウキ「あの人しか思い浮かばないんだけど……」

賢吾「…如月」

弦太朗「ん？」

賢吾「お前アホだろ！」

弦太朗「えっ」

賢吾「なんで君はここに知らない人がいるのに疑問に思わない！？  
というか不審者にそんな胡散臭い物貰うな！どこに置くつもりなんだ、そんな大きな物！そもそも友達はこの世界だけで作れ！」

ユウキ「長い長い長い！」

弦太朗「こんなときは逃げるに限る！」 逃走

賢吾「如月いいいい！！待て！！！」



賢吾「なんかいろいろ降ってきたな……」

???「いつてえ。ここどこだ？」

美羽「どちら様かしら？」

賢吾「自分達で呼んだ癖に、何故に女王対応!？」

???「ふん、俺は……」

???「士あ、その前に降りてくれ。そろそろヤバイ」

???「君の下にいる僕の方が限界なんだけど!？」

???「……」

???「無視かい!？」

賢吾「とりあえず一番下にいるのは如月だからな!？」

???「まあいい。俺は門矢士。通りすがりの仮面ライダーだ」

???「いや、士。一般人に仮面ライダーって……」

弦太郎「仮面ライダーキター……ッ!!!」 復活

士「おい、どうしたこいつ」

賢吾「……気にしないでくれ」

???「苦労してるんだな…あ、俺は小野寺ユウスケ」

弦太郎「仮面ライダーじゃないのか？」

ユウスケ「何この仮面ライダーに対する執着心!？」

賢吾「もう泣きたい」

士「ところでだ。なんで俺とユウスケはここにいるんだ？」

???「ナチュラルに僕を外すのかい!？」

ユウスケ「黙れコソ泥」

ユウキ「えつと、実は……」

士「成る程大体分かった。つまり俺達はここに呼ばれたということだな」

賢吾「本当にすまない……orz」

ユウスケ「いや、いいんだけどさ、それよりあの人が気になるんだけど……」

弦太郎「異世界ライダー友達キターーッ!!」

ユウキ「やったね弦ちゃん!」

???「僕の名前が出ない……orz」

美羽「ふふふ、跪きなさい!」 頭を踏む

ユウスケ「何アレ、カオス」

賢吾「……もう嫌だ」

士「というかここは何の世界だ?」

弦太郎「世界?」

士「まあ、平たく言えば、この世界のライダーはなんなんだ?」

弦太郎「!フォーゼツフォーゼツフォーゼエ!!!」

ユウキ「弦ちゃん落ち着いて!?!」

ユウスケ「フォーゼ?聞いたことないな……」

???「ここは僕の出番!」

ユウスケ「復活すんなバカ」

???「酷いよ!?!」

士「……でフォーゼって何だ?」

???「仮面ライダーフォーゼとは、平成仮面ライダー13作品目

で、4つのアストロスイッチで変身するんだ。ちなみに敵は人がスイッチで変身したゾディアーツだよ。あととりあえず名前だけは出してください???だけは止めてください」

ユウスケ「長い説明ありがとう。そうだな、お礼に名前だけは出してやる」

海東「上から目線!?!」

士「成る程、フォーゼか……どんなライダーなんだろうか」

弦太朗「なあなあ!お前って仮面ライダーなんだろう?どんなやつなんだ?」

ユウスケ「ライダー好きだね……」

士「俺のはディケイドだ」

ユウキ「ディケイド?」

弦太朗「えつと確か……世界の破壊者と呼ばれていて、いろんな世界を廻っている仮面ライダーだっけ?」

士「ほう、よく知ってるな」

弦太朗「ピンク色のバーコードライダーで変身者は……もやし?」

士「誰がピンクだあああああ!?!?!」

ユウスケ「落ち着けて!」

賢吾「その前にもやしにつっこめ!?!」

士「……ぜえはあ、とりあえずディケイドはマゼンタだ!覚えておけ!」

弦太朗「……変身してみてください!」

士「はあ?」

賢吾「如月、流石にそれは……」

士「フツ、いいだろう!但し!ユウスケと海東も一緒にだ!」

ユウ?海「……士、それ俺(僕)を巻き込む気満々だろ(だよ)ね!?!」

弦太朗「!2人も仮面ライダーなのか!?!」

ユウ?海「あああああ!?!面倒くさい!?!」

ユウキ「でもすごい!こんなにたくさんライダーがいるなんて!」

美羽「そうね。なかなか面白いじゃない、この機械も」  
士「ん、待てよ？確か俺達はその装置……えっとトモダチツクルゾマシン？によつてここに来たんだよな？」  
ユウスケ「違うぞ。確か……トモダチハツセイマシンだったはず」  
美羽「それじゃないわよ。トモダチハイシユツマシンだわ」  
ユウキ「違いますよ〜ライダーホイホイマシンですよ」  
賢吾「だあああああ！！！！違うううう！！！！というかこの粗大ゴミは友達を作らないし、発生も排出もしない！そもそもゴキリホイホイでもないっ！？」  
海東「すべてにつつこみを返した……」  
弦太郎「あと、賢吾！ナチュラルに粗大ゴミ言っな！？それとこれはトモダチワーブマシン！」  
海東「それ、随分ダサイね！？」  
士「それは置いといて……だ。とにかく鳴滝らしき野郎がこれを置いていったんだよな？」  
弦太郎「そうだけど……」  
ユウスケ「正直怪しさムンムンなんだけどな」  
ユウキ「……あつなんか張り紙がしてあるよ！」  
士「何々……。『デイケイドをこの世界に閉じ込めてやる！そして……放置してやる！』？」  
賢吾「普通そこはこの世界で倒してやる！とかじゃないのか！？」  
美羽「バカね」  
ユウスケ「待てよ……それだと俺達、帰れない……」  
士「はあああああ！！！！？？？鳴滝あのやるおおおお！！！！」  
海東「ふっ、僕は単体で自由に世界を渡れるから大丈夫さ！」  
ユウスケ「黙れ（サテライトの）クズ野郎」  
海東「だんだん小野寺くんが辛辣になつていく……orz」  
弦太郎「（）の中を見て、ある人物を思い出したら負け」  
賢吾「いや、分からないだろ！？仮面ライダーですらない！？しかも如月、君は誰に話しているんだ！？」

ユウキ「そこらへんは気にしない！」

士「よし、海東はほうっておいて……どうするか」

賢吾「いいのか!？」

弦太朗「うーん、自由に行き来できたらいいのにな……」

ユウスケ「どうして？」

弦太朗「俺の目標って仮面ライダーと友達になることなんだけど……」

……

士「大体分かった。自由に行き来できれば、いろんなライダーと友達になれるという訳か……」

弦太朗「そゆこと。でも、なあ……」

ユウスケ「問題はどうかやってそれ仕様に改造するかだよなあ」

賢吾「話の主旨がどうやって帰るかではなくてどうやって改造するかになってる……」

美羽「大丈夫よ。自由に行き来できるようにするということは自由に帰れるということだから」

ユウキ「あっそうだ!それ確かな……な……どこかのおじさんが作っただよね!」

賢吾「諦めるなよ!」

ユウキ「つまりその人を脅し……ゲフンゲフン。その人に頼めばいいんだよ!」

賢吾「ユウキの口からとんでもない言葉が出てきたっ!？」

弦太朗「そうだな!そいつなら構造知ってるはず!」

士「成る程。半殺しに……ゲホゲホ。必死に頼めばなんとかなるな!」

賢吾「脅しから半殺しにバージョンアップしたっ!？」

美羽「でも、その人、もうこの世界にはいないんでしょ?」

士「ふっ、問題ない。なんのためにこいつがいる?」

賢吾?ユウスケ「あ、海東使う気満々だな……」

海東「つ、士?ちよっ、僕1人しか渡……」

士「ギャグだからなんとかなる!」



士「よし！見とけよ！これが俺の変身だ！」

賢吾「どこぞのクウガ！？」

士「変身！」

カメンライド！ デイクライド！

弦太郎「おおーっ！」

ユウスケ「よし！俺も、変身！」 クウガに変身

ユウキ「すごい！」

海東「……」 返事がない。ただの屍のようだ

ユウスケ「おら変身しろ」

賢吾「扱いひどっ」

海東「へ……変身」

カメンライド！ デイクライド！

賢吾「……既に虫の息だ」

弦太郎「だつたら俺も！」

ライダー3人「へっ？」「」「」

3……2……1……

弦太郎「変身！」

フォーゼ「どうだ！」

ライダー3人「お前がフォーゼだったのかああああ！！？？」

フォーゼ「あれ、言っただけ？」

美羽「確かに言っただけじゃなかったわね」

ユウキ「それに自己紹介もしてないや」

賢吾「よく気がつかなかったな！？」

フォーゼ「じゃあ自己紹介しとくぜ！俺は如月弦太郎。仮面ライダー

フォーゼだ！この学校全員ととも……じゃねえや、この学校全員

と全ての仮面ライダーと友達になる男だ！」

賢吾「大事なところで間違えるな！？」

ユウキ「私、城島ユウキ！弦ちゃんとは幼なじみだよ！」

美羽「風城美羽よ。この学校のクイーンよ」

美羽「風城美羽よ。この学校のクイーンよ」

賢吾「……歌星賢吾だ……」

デイケイド「そうか、よろしくな。よし、とりあえず行くぞ！……あ、そうだ今思ったんだが、俺が帰ったらいろいろんなライダーに声をかけてやる。そしたらここで交流すればいい」

フォーゼ「マジでか！よっしゃあ！」

ユウキ「次回から忙しくなるね！」

クウガ「でも士、誰を呼ぶんだ？」

デイケイド「リイマジはもちろんオリジやWにオーズ等だな！」

賢吾「そんなにか！？」

デイケイド「まあ、ライダー以外も来ると思うがな」

フォーゼ「その全員と友達になるぞ！」

賢吾「もう、どこにつっこんでいいのか分からない」

クウガ「どんまい。今度つっこみ係に声掛けておくよ」

デイケイド「よし！行くぞユウスケ、海東、弦太朗！」

クウガ「おおーっ！！！」

デイエンド「馬乗りしたままで言わないでくれっ！？」

フォーゼ「ユウキ、賢吾、美羽！行ってくるぜ！」

ユウキ「行ってらっしゃーい！」

美羽「ふふ、ボッコボコにきてね」

賢吾「見送るなDSを発動するな大丈夫なのかあああああ！！  
??？」

フォーゼ「大丈夫だって。頼みにいっただけだぜ？」

デイケイド「そうだ。別に戦いにいく訳じゃあるまいし。心配すんな」

賢吾「心配するわ！そんな武装をして何が頼み事だ！？」

ライダー3人「「「Let's go!」」」

デイエンド「YAMETEEEEEEEE!!!」

賢吾「話を聞けそして馬乗りで行くなシユール過ぎるわあああああ  
あ！……！！！」

美羽「行っちゃったわね」



## 1話 友？達？戦？士（後書き）

どうも作者の夜風 紅です。

また、やっちやいました。まだ、オーズ&相棒も終わってないのに！大集会？そんなもの凍結だ！

さて、1話ですが……5000字超えたあああ！！ヤバイやりすぎたかも！

ということ、もしよろしければ、長いと思ったら感想に書いてください。

5人のつつこみを担っている賢吾wwさあ、これからどうなるのか！

あと、仮面ライダーを出すのですが、正直全員は無理なので、交代で出したいと思ってます。

もちろん仮面ライダー以外からも出したいと思っています！基本的に作者が知ってるものですけどww

さて、これも亀更新になると思いますが、お付き合い頂ければ幸いです。

あと、相談なのですが、次回出すライダーが決まっております。

ということ募集したいと思います 早っ!？

オリジ、リマジ問いません！先着5名にしたいと思っています！感想に書いて送ってください！

よろしくお願いします。一応期限は10月12日にしたいと思っています。

感想を無制限にしています。よろしくお願いします。

それでは次回お会いしましょう。

## 2話 欲？望？妄？想

賢吾「えーっと、前回の交渉（？）のおかげでラビットハッチにライダー達が行き来できるようになりました」

ユウキ「一応もう自己紹介はしてあるということぞ！」

弦太郎「SPACE ON YOUR HAND！ その手で宇宙を掴め！」

弦太郎「~~~~」

ユウキ「弦ちゃん、ご機嫌だね！」

弦太郎「おうよ！今回から本格的にライダーが来るんだからよ！楽しみでしようがねえ！」

賢吾「どうでもいいが、勢い余ってここを壊すなよ？」

美羽「そろそろ来るかしら？」

ウイイイイイイン

JK「あ、こんにちはっす！」

弦太郎「帰れ……」

JK「酷っ！？先輩がここに呼んだのに！？」

弦太郎「俺が待っているのは仮面ライダーだあああああ……！！！」

映司「こんにちはっす」

ユウキ「落ちついて！！一応JKも（多分）仮面ライダー部の部員  
なんだから！」

賢吾「（）の中……！！！」

映司「あの……」

美羽「あら、いつの間にかいたのかしら？」

映司「俺ってそんなに空気！？」

賢吾「そして君は客に対して女王対応はやめる！？」

弦太郎「おおっ！確かオーズの火野映司さんだったな！よろしく！」

映司「よろしく！」

賢吾「ところで君一人なのか？」

映司「あいや、その……」

アネク「俺達も」

ウヴァ「いるぜっ！」

カザリ「へえ、ここが宇宙か……」

ガメル「メズール！地球！」

メズール「あらホントね」

後藤「伊達さん！？おでんは自重してください！」

伊達「いやー無性に食べたくなったもんだからさ」

賢吾「多っ！！帰れよ……」

映司「あはははは。ごめんね」

弦太朗「オーズからか！よし！友達になるぞ！」

賢吾「いいのか！？怪人混じってるけど！？」

後藤「すまない。勝手なことをして」

ユウキ「いや、いいんですよー面白そうだし！」

映司「面白さで判断しちゃうんだ！？」

弦太朗「面白ければよし！ってところだからな！」

JK「そういえばグリードのみんなって……」

アंक「ああ、一応今の俺達本編とは関係ねえから」

ユウキ「…そう言えばグリードって欲望でヤミーを作るんだよね？」

カザリ「そうだけど？」

ユウキ「じゃあさ！ここにいる人達でヤミー作ってみて！」

賢吾「一番危ない発想が出たぞ！？」

弦太朗「よし！採用！」

賢吾？後藤「「なんでだあああああ！！！！！！？」」

映司「でも確かに俺達本編じゃあ、ヤミー作られてないからなあ」

美羽「どんな欲望を持ったヤミーが出来るのか楽しみね」

伊達「おでんうまーっ!!」

ガメル「俺にもちようだい!」

伊達「おおー食べるか? うまいぞ」

後藤「伊達さん! 何やってんですか!？」

賢吾「誘うな食べるな和むな!」

JK「出た! 歌星先輩のつつこみ三連鎖!」

賢吾「君は黙っててくれ!」 回し蹴り

JK「ぐほっ! 俺こんな扱いばっか……orz」

賢吾「とりあえず危ないから禁止!! せめて妄想だけにしておけ!」

弦太郎「ええーっ」

ユウキ「だったら一番安全そうな人ので作ってみようよ!」

ウヴァ「おっそれいいな!」

メズール「でも、誰ので作るのかしら?」

アंक「それは後で考えればいい」

後藤「結局作るのか!？」

ガメル「でも、俺、できない」

メズール「あらそうだったわね。じゃあガメルは見学でもしてましようか」

賢吾「一児の母親!？」

弦太郎「よし! 妄想してみよう!」

ユウキ「誰からいく?」

伊達「ここはベターに如月からいこう」

カザリ「成る程主人公だからね」

美羽「でも、弦太郎の欲望って……」

アंक「友達を作る……しかないよな」





映司「うあああ……ぐすっ」

賢吾「追い討ちをかけるな！」

ウヴァ「とりあえず想像してみた」

ヤミー「P A N T U！よこしなさい！」

JK「ぎゃあああああ……！！！！……何この変態怪物！？？」

賢吾「ヤミーというよりただの変態だ！？しかもどこかの193が混じってるうううう！！！！」

JK「ねえ！なんでまた俺！？恨みでもあるの！？」

弦太朗「あのヤミー……どこへ奪ったパンツを持っていくんだらう？」

メズール「聞かないほうがいいと思うわ」

ユウキ「このヤミーをもし、メズールが作ったら……」

ヤミー「パンツパンツパンツパンツパンツパンツパンツ」  
大量発生

賢吾「なんだコレエエエエエ！！？恐怖だ！」

メズール「いやよ！こんなの作りたくないわ！」

ガメル「大丈夫。メズールは俺が守る！」

カザリ「いや、今関係ないからね？」

ウヴァ「ちなみにこのヤミーは女性は襲わない！」

賢吾「…フェミニストだ！」

伊達「流石は火野のヤミーといったところか！」

後藤「伊達さん！そこ関心するところではありません！」

映司「orz」

賢吾「映司さんが死んでる！？」

カザリ「そりゃあ……」

美羽「あれだけいじれば……」

JK「誰でも落ち込みますよ……」

弦太郎「大丈夫だ！そんな（……趣味、はずかしくないって！それに所詮設定だし」

映司「……（灰）……」

賢？後？アン？カザ「逆効果だアホおおおおお！」「」

メズール「オーズの坊や！戻ってきなさい！」 水放出

映司「わぶっ!?…はっ俺は今まで何を…」

後藤「やっと戻ったか」

映司「…アंक…俺な…」

アंक「何だ？」

映司「もう一生(…パンツとは関わらないことにするよ」

アン?カザ「…はあああああああ!?!?」

JK「戻ってなかったーっ!」

賢吾「それ聞こえはいいけど危ない!？」

後藤「せめて最小限は関わってくれ頼むから!？」

映司「いや、だってね。パンツでこんなにいじられるんだったら…

いつそのこと…」

アंक「早まるなああああ!?!」

カザリ「謝るから!ホントにそれだけはあああああ!?!」

ウヴァ「おい!誰かオーズを犯罪者になる前に更生してこい!」

アंक「俺が行く!来い!映司!」

映司「あはははは何だよアंकう」 パンツ破り捨て

賢吾「そういいながら破り捨てたままいかないでくれっ!？」

弦太朗「映司さん見事に病んだな」 おでん装備

伊達「きつとアニコが立派に更生してくれるさ」 おでん(r y

美羽「とりあえずあの人の話は禁句ね」 お(r y

賢吾「そしてしゃべらないと思ったら、何とんんでいるんだ君達!？」

弦太朗「いいじゃねえか。気にすんなって」

カザリ「じゃあ…次は…」

ユウキ「はいはい!やってみたいです!」

弦太朗「ユウキの欲望…かあ…」

メズール「なかなか難しいわね」

美羽「あえて言うなら、宇宙関係かしら？」

カザリ「宇宙？」

ヤミー「宇宙に行こう！（宇宙服なしで）」

全「」「無理無理無理いいいい！！！！殺す気か！！」「」

カザリ「ごめん、なんか無駄に元気なヤミーしか思い浮かばないや」

賢吾「あと、誰がヤミーを作っても宇宙人型のしかできない気がするのは気のせいかな？」

ウヴァ「いや、俺もそれ思った」

弦太郎「さらにこのヤミーが増えればあら不思議！」

ヤミー「……ヤミーの宇宙講座はーじまーるよー……」  
全「……わーっ！」「」

アंक「なんだこの平和なヤミーッ!？」

伊達「お、アंक！戻ってきたか！」

後藤「火野は？」

アंक「ああ、一応元には戻った。くそっあいつ説教中に犯罪犯そ  
うとしゃがって……」

カザリ「結構危なかったんだ!？」

ユウキ「まあ、戻ったんだからいいんじゃない？」

ウヴァ「そうだな」

映司「さて、お次は……伊達さん!」

カザリ「いや、おでんしかないでしょ」

ウヴァ「いや、分からんぞ。一億円稼ぐとか……」

賢吾「それ、いつの話だ？」

伊達「いやーでもちよっとなやってみたいことがあんのよ」

後藤「何ですか？」

伊達「作ったヤミーをおでんに……」

グリード「……やめろおおおおおおお！！！！……」

映司「何それ恐怖のおでん!?!」

賢吾「キヨちゃんおでんの続きか!?!」

アंक「つーかその前に鍋にヤミー入るのか?」

伊達「もちろん何個かに解体して」

全「……ギヤアアアアアアアアアア!?!?!?!?!」

JK「……グロツ」

メズール「そんなヤミーの末路見たくないわ」

賢吾「というか解体した時点でヤミー、セルメダルに変わってないか?」

カザリ「それでも嫌だけど……」

弦太郎「とりあえずこれは流石に却下あああああ!?!」

ユウキ「次は賢吾くん、行こう!」

賢吾「いや、俺は……」

ウヴァ「予想的には正義感の強いヤミーができそうだな」

美羽「そうね。但しとても病弱なヤミーになると思っわよ」

賢吾「聞けよ」

映司「ああー正義感強いけど病弱だから何もできないみたいな」

後藤「それ、歌星の設定にすごく似ているんだが!?!」

弦太郎「今更気にすんな」

アंक「そうだな、例えば……」

ヤミー「よし、欲望でも叶えに行くか！」

数秒後

ヤミー「……もう無理です」セルメダル化

映司「弱っ！」

カザリ「まさか走りだしてから数秒で消滅なんて……」

美羽「弱いにもほどがあるわね」

賢吾「待て！俺そこまで病弱じゃないぞ！？」

メズール「でも体育って殆ど休んでるんでしょ？」

賢吾「何故君が知ってる！？」

弦太郎「それに、そこまで長くは走れないだろ？」

賢吾「そーですけど！？50m走り切ったことないですけど何か！？」

映司「走り切ったことないんだ！？」

後藤「最終的には開き直ったな」

賢吾「50m走は大抵途中でリタイアか、最終的には後からスタートした奴らに抜かされる始末」

カザリ「それ、いじめだよーね！？」

アंक「まだ走ってる奴がいるのに次の奴スタートさせるか？」

映司「ちなみにそれやったの誰？」

ユウキ「確かそのときは…アンガ…じゃないや…えっと…名前忘れちゃった」

後藤「忘れるな!？」

ウヴァ「よし、そいつ一回しめてくる」

弦太郎「友達いじめんなクソ野郎」

映司「よし、とりあえずメダガブリュー」

後藤?伊達「バスバスターで」

カザリ「何この集団!?!何しにいくつもりなの!?!」

賢吾「気持ちはありがたいが…帰ってきてくれ君達!」

弦太郎「次は美羽いくか」

ユウキ「風城先輩は…クイーンであること…が欲望かな?」

メズール「クイーン…ね…」

ヤミー「ひざまずきなさい!」

JK「はい！わかりましたああああ！！！！」

カザリ「女王なヤミー」

アंक「ウヴァが作ったら間違いなく女王蜂ヤミーができるな」

JK「もう、俺って…何…？orz」

弦太郎「いじられキャラ」

JK「はつきり言わないで！？悲しくなるから！」

ウヴァ「今、変なのを想像したんだが…」

美羽「ふふ、私がクイーンよ！」

ヤミー「…はい！美羽様！！！！」  
敬礼

賢吾「ヤミーを手なづけたあああああ!？」

メズール「まさかヤミーを配下にするとはね……正直恐ろしいわ」

美羽「ど?ん?な発想をしてくれているのかしら?」　ウヴァを踏

みつけ

ウヴァ「ギャアアアア!?!?踏まないで!?!ただだだだだ

!?!?!あ、でもなんかいいような気が……」

アंक「ウヴァのMを発掘するなあああ!?!」

映司「帰ってきてえええええ!?!?!」

結局、ウヴァのMは覚醒しませんでした。

弦太朗「今日はいろんなヤミーを考えることができたな!」

賢吾「変なのしかできなかったけどな」

ユウキ「そう言えば、グリードにセルメダル入れたらどんなヤミー  
ができるのかな?」

アंक「まだやる気なのか!?!」

カザリ「でもさ、それって……」

メズール「そうね無理だわ」

弦太朗「なんでだ？」  
グリード「……だつてグリードにセルメダル入れたら、溜まる  
だけだから」「  
弦？ユウ？美？」「あぁー」「  
映司「そついえばそつだね」

後藤「なあ……」

JK「俺達だけ……」

後藤？JK「ヤミーが考えられてないんですけど、いじめですか  
コレ！？」

賢吾「いや、そうじゃなくてな……」

伊達「後藤ちゃんは基本的に石頭ヤミーしかできないし……」

弦太朗「JKは絶対にチャライヤミーしか出来ないと思う」

映司「却下で」 真顔で即答

後藤？JK「orz」

ユウキ「ドンマイ（棒）」

賢吾「ユウキが地味に酷いな!？」

弦太朗「あ」

美羽「どうしたの？」

弦太朗「いや、今1人いないと思った……」

カザリ「あつガメル!」

メズール「ちよつとプロトバースの坊や！さつきまで一緒におでん食べてたでしょ？」

賢吾「長いなその名前!？」

伊達「あーいやー俺も気がつかなかった」

アंक「おい、もし外に出てたらまずいぞ！」

ユウキ「学校でも宇宙でもヤバいね」

ウヴァ「しかも怪人態というおまけつき」

後藤「あああああ!?!どうするんだ!?!」

映司「……あつ！ガメルいたーっ!?!」

JK「えつ……て……あああああ!?!」

ガメル「メズール！ふわふわしてて面白い！」 宇宙服を着て月で

ジャンプ中

バガミール「 同じく

ポテチヨキン「 同じく

メズール「ガメルウウウウウウ!?!戻ってきなさい!?!」

後藤「どうやって宇宙服を見つけたああああ!?!?」

賢吾「しかもバガミールとポテチヨキンも一緒かよおおおお!

!?!?!」

映司「……」

アंक「何やりたそうな目をしてんだああああ!?!?」

映司「いや、だってさ……」

伊達「俺もやりたいなあ」

ウヴァ「楽しそうだな」

ユウキ「じゃあみんな逝っちゃう?」

殆どの皆さん「わーい!?!」

賢吾「待て行くな帰れ!?!」 残った

後藤「殆ど行つたああああ!?!?」 残った

アंक「おい！カザリとメズールまで行くなああああ!?!」

残った

3人「……しかも逝くになつてる喜んで行くなあああああ!?!」

!???  
「  
「

シーーーーン

3人「  
「  
「  
……お茶でも飲みますか……  
「  
「  
「

## 2話 欲？望？妄？想（後書き）

あとがき

どうも久しぶりの更新です。

さて、今回はオーズが来ました！といっても信吾さんや比奈ちゃんなどは出ていませんがww

今回も長い！まさかの6000字いったあああああ！

というかまたテンションがおかしいですww

オチは本当はキヨちゃんで行きたかったのですが、ネタが思いつかないため、ガメルに宇宙（そと）へ行ってもらいました。

それぞれのキャラの欲望はてきとーなところもあるので、もし、こんなんじゃない！という人がいたら教えてください。

あと、来週から試験週間に入りますので、しばらく更新できないと思います。

感想、指摘よろしくお願いします！  
では。

### 3話 狼？乱？心？中（前書き）

今回オーズ、Wのみなさんはお休みです。

### 3話 狼？乱？心？中

弦太郎「さて、みんな今日10月31日は何の日かわかるかー!？」

ユウキ「宇宙の日!」

シンジ「レンさんとの約束の日!」

カズマ「何それ!？」

総司「ソウジ」「おばあちゃんが言っていた……。10月31日はおじいちゃんの命日だ!」

シヨウイチ「見事にシンクロしてんじゃねえよこのおばあちゃんバカ!！つーか不吉過ぎるわ!墓参り行って来い!！」

真司「とりあえず遅刻通算100回目!」

JK「あ、わかった。ハロウ……ぶっ!？」 回し蹴りがクリーンヒット!！」

美羽「空気を読みましようね?そこ?は」 回し蹴り犯

賢吾「城戸さん何してんだあんた!？よくそれでクビになってないな!？そしてそこは何してるんだあああああ!！!???」

剣崎「ウエエエエエエエイ!！ウエイウエイ!」

カズマ「剣崎さあああああ!！??帰ってきてくださああああい!！」

真司「てかあれ?10月って、31日あったっけ?」

賢吾「あるよ!？それくらい覚えとけよ!」

雄介「俺は決してつつこみへは回らない!」 サムズアップ

ユウスケ「そして俺は今日海東の命日だと思う!」 釘バット装備

カズマ「五代さああああん!？お願いだからサムズアップ付きはやめて!？悲しくなるからあ!！」

海東「小野寺くん冗談だよねそれえ!？降りかざさないでお願いだからあああああ!！」

シヨウイチ「もういい!もういいわああああ!！!今日はハロウインだろっが!」

全「「「あー！」」」

シヨウイチ「……何？その目」

津上「空気読もうよ芦河くん」

シンジ「シヨウイチさんKY」

シヨウイチ「いつの流行り言葉だそれ！？というか仕方ないだろ！

お前らがボケ倒すから！」

弦太朗「ボケのせいにするのか！」

全「「「じーっ」」」 メチャクチャ芦河氏をガン見

シヨウイチ「もういい……orz」

賢吾「（哀れ……）」

JK「良かった……もし俺が言ったら俺もこんな風になってたの  
かな……？」

弦太朗「……ハイ！ということでは今日はハロウィンです！いろいろ  
はっちゃけてしまいましょうー！」

全「「「おおーっ！」」」

賢吾？カズマ「いや、何もなかったことにするなああああああ  
！！？？」

アスム「……ハロウィンって何なんでしょうか……？」

ヒビキ「さあ……？」

カズマ「ここについていけない人がいたよ！？」

賢吾「いや、確かに響鬼は仕方ないけどな」

翔一「和風だもんねえ」

シンジ「というか日本産のライダー？」

真司「産地直送的な？」

カズマ「はいストッパー！ライダーは農作物じゃないからな？」

アスム「……でハロウィンって……？」

JK「じゃあ俺……」

弦太郎「俺が説明するぜ！」

JK「orz」

雄介「どんまい！」 サムズアップ

カズマ「五代さん、何でもサムズアップすればいいという訳ではないからね？」

ヒビキ「……で？」

弦太郎「おう！ハロウィンってのはな……。昔昔、ある人達がいてな……。そいつらが飢えて飢えて困った為、『Trick or treat!』って言いながらお菓子を貰いに家を廻ったことが由来らし……」

賢吾？カズマ「違う違う違う……！！！！！！」

シヨウイチ「なんだそれ！？失礼すぎるわ！！謝ってこい今すぐ！

！」 ボケに耐えきれなくて復活

アスム「……ハロウィンってそんなに悲しい祭りなんですな……」

賢吾「ほらああああ！！純粹すぎてアスムが信じたぞ！？」

カズマ「違うから！！辛うじて合ってたのTrick or treat!のとただだから！！」

シヨウイチ「もっかい説明しろ！！責任とって！！」

弦太郎「はいはい。ハロウィンってのは仮装しているんな人達を脅してお菓子やら金品やらを奪う……」

賢吾「待てええええええ！！？？それただの強盗！！」

ヒビキ「そうか！こんなときは変身して……」

シヨウイチ「するなああああ！！？？つか信じるな！」

カズマ「はいもう一回説明やり直し！」

弦太朗「ちえ……。わかったよ。えーっとハロウィンってのは……。ある地域の人の一年の終わりが10月31日で、この夜は死者の霊が家族を訪ねたり、精霊や魔女が出て来ると信じられていたんだ。そいつらから身を守る為に仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていたことが由来で、今ではぶっちゃけ仮装してお菓子を貰いに行くってことになってるな！」

賢吾「シヨウイチ」「長い長い長いわああああああああ！」「カズマ」というかぶっちゃけ最後だけでよかったような……？」  
ユウスケ「Trick or treat!の要素は一体どこへ……？」

士「(それ絶対wiki参照だよな……?)」  
wiki参照です。

弦太朗「はい！というわけでわかりましたか？」

アスム「ヒビキ」「大体は」

賢吾「(本当に分かったのか……?)」

シヨウイチ「(誤解してそうで怖いな……)」

弦太朗「はい！困惑顔の響鬼2人はほつといて！」

士「今回！ハロウィンで行うことは……2つある！」

ユウキ「一つ目は、ジャック？オウ？ランタン作り！」

美羽「ちなみにジャック？オウ？ランタンはカボチャをくり抜いて作られているわ」

隼「今回はそれを作ってもらおう！」

ソウジ「だが、材料はどうするんだ？」

士「ふつ、そこは心配ない！なぜなら……」

翔「はい！持ってきたよー」

士「こいつが持参してくるからな！」

カズマ「いやいやいや、津上さん、それどうしたんですか？」

翔「自分で育てたけど……？」

シヨウイチ「こんなにか！？いや百歩譲って数はいいとしよう……  
だが！日本では作らないカボチャをどうやって作った！？」

ジャック？オウ？ランタン用のカボチャはオレンジ色の皮をしています。

翔「気合い？」

賢吾「気合いかよ！それでもものが作れたら苦労せんわ！」

雄介「まあまあ細かいことは気にせずに」

士「よし！それぞれ渡つたな！」

弦太朗「今回は何個原型を留めてないやつがでっきるかな」

シヨウイチ「オイ」

ユウキ「それではスタート！」

1. ジャック？オウ？ランタンを作ろう！

アスム「ジャック？オウ？ランタンって……何でしょうか……？」

弦太郎「あつとアスム氏！しょっぱなから困惑！」

ユウキ「まずいですね！響鬼2人は圧倒的に不利！」

賢吾「君達は何をしている！？」

弦太郎「俺とユウキが実況」

美羽「私と隼が解説よ！」

弦太郎「あ、ちなみにJKは雑用」

JK「orz」

カズマ「(相変わらず不潤なJK……哀れ)」

弦太郎「ああとそう言ってる間にW龍騎が」

シンジ「うーんもうちょい削るか」

真司「あああやばい折れる折れる」

カズマ「って何作ってるの!？」

真司?シンジ「何って……龍騎ナイトの仮面」

シヨウイチ「高度過ぎるわ!あの短時間でよく作れたな!？」

カズマ「そしてシンジ何故そこでナイトを作る?いや、分かっているけどさ」

賢吾「分かっているなら聞くなよ……」

美羽「城戸さんの方は……鉄仮面をよく作れたわね」

士「とりあえずWしんじ。中身はほじくろうな?」

真司?シンジ「あ」

シヨウイチ「ああ、やっぱりバカだった……」

弦太郎「さてお次のボケは……?」

賢吾「ボケ待ちするな!」

良太郎「うわわわわわわああああ!!」

ユウキ「ああーつと不幸の代名詞野上良太郎さんが早速不幸スキル発動だーっ!」

カズマ「説明酷っ!」

弦太郎「見事にカボチャの山を崩し、大雪崩に飲み込まれております!この状況どう思いますか美羽氏?」

美羽「そうね……このあたりは予想範囲内かしら」

隼「余裕だな!?というか見てないで助ける!」

良太郎「うああああああああ」

カズマ「良太郎おおおおおおお!!??」

シヨウイチ「完全に埋もれたな……」

美羽「ま、でもこの不幸でカボチャ大戦が起きなかっただけでもよしとしましょう」

賢吾「だからなんで君はそんなに余裕なんだ!」

美羽「女王だから?」

カズマ「だからなんで疑問形!」

賢吾「今更だが……なんでこんなにカボチャが多いんだろう?」

士「大体分かった。津上の生産スピードが早すぎるんだ」

ユウキ「ちなみにどのくらい?」

翔一「えつと……大体のものはシャイニングを使えば10分くらいでできるよ」

シヨウイチ「スペックの無駄遣い!」

賢吾「というか早すぎる!!」

弦太郎「よし、これ以上は良太郎が窒息死するから自重してくれ!」

M良太郎「だああああああ!!何してんだ良太郎お!」

良太郎「ごっごめんモモタロス」

ユウキ「おっここで契約イマジンの登場だああああ!!」



弦太朗「とりあえずこつちにも合掌」  
士？シヨウイチ？賢吾「」「だな」「」

ワタル「……あれ？なんかいい匂いが」

カズマ「ホントだ」

シヨウイチ「……て何やってんだおまえらあああああ！？」

総司？ソウジ「」「ん？」

シヨウイチ「ん？じゃねえよ！2人して何やってんだ！？」

弦太朗「ああーつとまさかのWそうじ！カボチャの煮物を作り始めたーっ！？」

美羽「おいしそうな匂いね」

隼「流石はWてんどうそうじと言ったところでしようか！というか腹減った」

賢吾「いらんことは解説せんでもいい！！」

カズマ「あの2人…結構仲いいね」

シヨウイチ「っーか作るもんが違うから！何故作る！？」

ソウジ「いやあまりにも美味しそうなカボチャだったから」

総司「何、余らせるのも悪いと思っただけ」

賢吾「だからっ作るな！」

弦太朗「じゃあ後でみんなで食べましょうか！」

全「」「はい！」「」

カズマ「そこだけ反応すんの！？つっこみしてくれないくせに！」「賢吾」といつか段々ハロウィンから遠ざかっているような……」

ランタンの被害状況

雄介？ユウスケ 形はまとも

翔一 生産に勤しんで作ってない

シヨウイチ っっこみに勤しんで作ってない

真司？シンジ 龍騎ornaitの仮面（かなり凝っている）

巧？タクミ 冬眠中

剣崎 すべて爆発

カズマ シヨウイチ同様

アスム？ヒビキ 般若の面構えをしている

総司？ソウジ このあとスタッフが美味しくいただきました。

良太郎 何故か消滅

渡 ニスの材料

ワタル ドツガで粉碎（理由イラついたから）

土 写真を撮っていて作ってない

海東 何故か包丁が突き刺さっていた

夏海 そもそも不参加

弦太郎「はい！というわけでボロボロのジャケット？オウ？ランタンができました」

全「「うおおおおおい！！？」「」

士「2つ目にやることは……衣装案を出してもらおう！」

カズマ「何故に！？」

シヨウイチ「というかハロウィンパーティーやるんじゃないかったのか！？」

士「は？いつそんなことを言った？」

シヨウイチ「……まさか」

士「今日はハロウィンだが…普通にやるのは面白くないだろう？」

弦太郎「だからこそ！違う観点でのハロウィンを楽しんでもらおうと思っただけ！いい体験だろ」

全「「はあああああ！！？？ふざけんな！！」「」

JK「ちなみにこれ宿題なんだけどなっ」

フォーゼ組はハロウィンの衣装を考える宿題を出されています。

(家庭科です)

弦太郎「よしJK黙れ」

ユウキ「わざわざ言わなくてもよかったのに」 JKの急所を

一撃

JK「ぐぼはっ!?!?.....チーン.....」

シンジ「南無~~~~」

カズマ「シンジイイイイイイ!!?!?!?」

2. 衣装を考えよう!

士「よし、とりあえずハロウィンの衣装といえは?」

弦太郎「吸血鬼!」

ユウキ「宇宙人!」

真一「フランケンシュタイン?」

友子「.....魔女.....」

翔一「うーん、黒猫?」

シンジ「ナイトの契約モンスター」

渡?ワタル「とりあえずキバでお願いします!」

カズマ「というかなんかいたあああああ!!?!?!?」

シヨウイチ「おい!半分以上間違ってるぞ!?!」

賢吾「とりあえずそのキバ2人変身は止めてくれ!」



！」

タクミ「……おいコラ……」

巧「……うつせえんだよ」

弦太郎「ああとこれは……冬眠中のファイズが起きたーっ！！」

シヨウイチ「冬眠してたのかよ！？オルフェノクなのに！？」

賢吾「早っ！というかまだ実況続けてるのか！？」

タクミ「……とりあえず一生……」

巧「黙つとけやああああ！！！」

士？ユウスケ「「ぎゃああああああ！！??」」

海東？JK「なんで僕（俺）もおおおお！！??」

弦太郎「お決まりのパターンで2人もドーンです！」

カズマ・シヨウイチ・賢吾「「哀れすぎるっっっっっ！！！」」

」」

### 3話 狼？乱？心？中（後書き）

今日はハロウィンですね！

と言っても自分には全く関係ないですがww

今回もわけの分らないことをやってもらいました。ちなみに今回

の突っ込みは三人です。たつくんは・・・冬眠中ですww

ファイズ二人は寝起きなので機嫌が悪かったんです。

とりあえずいろんなところに突っ込んであげてください。

感想、指摘をよろしく願います！

では、よい日をお過ごしください！

#### 4話 使・用・注・意 (前書き)

これは12話前の話なので友子は出てきません。  
今回はリマジ出演です。

#### 4話 使・用・注・意

弦太朗「予想したい！」

賢吾「はあ？」

JK「どうかしたんつすか？もしかして本編の魔女の影響で……？」  
隼「いや、それはないだろ」

シヨウイチ「……で、何をだ？」

弦太朗「もちろんスイッチだ！これからどんなのが出てくるかを予想するんだ！」

シンジ「ふーん」

アスム「面白そうですね！」

ワタル「やってみましょう！」

カズマ「なあ、これって……俺達ツツコミが苦勞するパターンだよな？」

ユウキ「大丈夫！もう1話からそうなってるよ！」

賢吾「最近ユウキが酷い……orz」

シヨウイチ「本当にツツコミって……何だろうな？」

シンジ「さあ？とにかくそれは作者のバカに言ってください」

カズマ「シンジ、バカって言ったらダメだから」

弦太朗「一応ルール説明！」

カズマ「一応って……」

弦太朗「おう！どうせルールなんて後でないことになるからな！」

賢吾「それは言ったらダメだろ！？それに開き直るな！」

ユウキ「ルールは簡単！これから仮面ライダーフォーゼ（本編）に出てきそうなスイッチから絶対に出てこないようなスイッチまで予想してもらいます！」

美羽「ただし、それをどこに装備するかは明確にしてね」

ソウジ「まあ、絶対ないのしか出てこないと思うがな」

シヨウイチ「おいコラ」

弦太朗「それでは！スタートオオオオ！！」  
賢吾「テンション高いなオイ！？」

ソウジ「トンガリコーンスイッチ」  
シヨウイチ「何だそれ！？」

ソウジ「文字通りトンガリコーンを装備する。ちなみに装備場所は……頭」

カズマ「フォーゼ知ってる？ソウジさん！？頭に装備はできないから！？つーか何故頭！？」

ソウジ「いや、どうしても頭が気になつてな」

賢吾「尖ってないからか！？中途半端に丸いからか！？」

シンジ「あー確かカブトはホーンで頭突きできるもんね」 トンガ  
リコーンを食べながら

隼「…って何食べてるんだ！？」

ユウキ「確かに頭尖ってたら、攻撃（主にというか頭突きオンリー）  
に便利だよなー」

カズマ「えげつないから！あと尖ってたらお子様に危ないから！（フィギュアの的な意味で）」

弦太郎「そうだよな！。なあ賢吾。なんでフォーゼの頭の先って丸いんだ？」

ユウキ「きつと丸いから座薬だとかおにぎりとかいわれるんだよ！賢吾「……知るかつ！？番組スタッフにでも聞いてこい！」

カズマ「それも言ったらいけないから！」

ユウスケ「というか別に尖ってても座薬とかいわれそうな気がするのは俺だけ？」

シンジ「さあ？」

ユウスケ「なあ、今更思ったんだけど……」

隼「なんだ？」

ユウスケ「フォーゼの足に装備するスイッチって……えげつないよ  
うな」

カズマ「それ、言ったらいけないと思う」

弦太郎「あーでも確かにランチャー、ガトリング、スパイク、ドリル、チェーンソー……」

ユウキ「うん、確かにえげつないね！」

賢吾「そう言っても笑顔が黒いんだが？」

ユウスケ「ということでは足にはあげつないものを付けるべきだと思う！」

シヨウイチ「いや待て！？ホッピング！ホッピングはどうなるんだ！？」

ユウスケ「……左遷で」

賢吾「っおおおいいい！！！！？」

弦太郎「だったら……ホッピングは手に付けてやる！」

シヨウイチ「どうやって使うんだアホ！！」

弦太郎「もちろん相手を殴る時」

カズマ「ホッピングって何か知ってる！？」

シンジ「移動手段」

カズマ「ねえシンジ、それ、本気で言ってる？」

賢吾「というかホッピングでどうやって移動するんだ？ロケット使えよ」

ユウスケ「……で具体的な案は、ニードルスイッチ」

賢吾「嫌な予感しかない」

ユウスケ「装備場所は右足で相手を蹴るとトゲが伸びて相手をブツ刺す。あと、トゲボールを発生させて、サッカーの要領で蹴って相手を攻撃（ただし物凄くイタいゾ）」

全「……全くと言っていいほどかわいくねーよ！！！！」

シヨウイチ「えげつないな……」

シンジ「ユウスケはドS」

カズマ「それ言ったら殺されるよシンジ」

シンジ「あーだったらライダースイッチ」

シヨウイチ「来ると思ったよ！」

ソウジ「ガンバライド？」

カズマ「あーはいはいそれは言わない」

弦太朗「出るかどうかもわかんないけどな！」

シンジ「スイッチの効果は装備するとそのライダーにフォームライ  
ド！」

士「デイケイドオオオオオオ！！！！？（泣）」

ユウスケ「って士！？いたのかよ！」

シンジ「装備場所は……左手」

賢吾「そこはスイッチエンジ的な意味で右手にするべきだと思う  
！」

シンジ「ちなみに他のスイッチも装備できる！（例？オーズスイッ  
チとドリルスイッチ）」

全「……何そのデイケイドをしのぐようなチートライダーっ！！？  
？」

士「デイケイドオオオオ……orz」

タクミ「どんまい」

士「なんかなぐさめられたような気がしないのは何故だろう……？」

ユウスケ「それはタクミが超いい笑顔だから……じゃない？」

カズマ「タクミ、何があった!？」

タクミ「ここいらで士をイジメてやるうかと」

美羽「なんか黒いものが降臨したわね」

ユウキ「なんか怖いよ」

賢吾「既に黒い君が言うか!？」

ユウキ「何か言った？」 超いい笑顔

賢吾「イイエー」

ワタル「……でタクミはどうしたんですか？」

タクミ「だって……だって……僕なんて映画にも出られない、オルフェ

ノクだし、出番少ないし……」

ユウスケ「……あ、だから士に八つ当たり？」

カズマ「タクミ、やさぐれないでね？」

シヨウイチ「というか映画は仕方ない」

ソウジ「オルフェノクは……とりあえず乾くんを呼んできたほうが

……」

アスム「いえ、それよりかは人外ライダーを呼んできたほうが」

シンジ「えっと……乾さん、オンドウルバカ、紅さん、シヨウイチ

さん、ワタル……あたりかな？」

シヨウイチ「……シンジ、お前は俺が人外だって言いたいのか……？」

シンジ「いやだって超能力」

ギルス「……」

カズマ「シヨウイチさんストップ! 勢いでギルスにならない!」

賢吾「というかどうやってギルスに退化した!？」

ユウスケ「その前に剣崎さん!! オンドウルバカにツッコもうよ」

弦太郎「よし、本題に戻って」

タクミ「ホーススイッチってというのはどうですか？」

シンジ「馬？スイッチつけたらあの跳ね馬が出てくんの？」

カズマ「他作品ネタを出さない！」

アスム「このネタ分かった人っているんですかね？」

ワタル「ヒントは天馬です」

隼「つと話を戻して」

美羽「その跳ね馬……じゃなくてホーススイッチ？って何なの？」

タクミ「えっとそっちのホースじゃなくて水やりするとき使うホ

ースです……。でそれを右腕に装備して放水して相手を攻撃する感じ

ですね」

弦太郎「でも、それってファイヤースтейツのやつと被ってないか

？」

ユウキ「あーあの消防士な感じのアレか……」

タクミ「どうせ僕なんて……orz」

シヨウイチ「よし、弦太郎謝ろうな？」

弦太郎「え？」

賢吾「自覚してないんだけど！？」

シンジ「大丈夫だタクミ！ホーススイッチの有効活用法を見つけた

！」

シヨウイチ「…嫌な予感しかしない……」

シンジ「このホースはムチとして扱えるよ！」　ホースを振り回し

カズマ「ドS発想ギターーッ!?」

弦太朗「ギターーッ!は俺の専売特許!!」

シヨウイチ「どこにツツコンでるんだ!？」

賢吾「というか君はいい加減物の正しい使い方を理解しろーっ!」

シンジ「そしてあら不思議!!両手に持つと……シャシャシャウタ

シャシャシャウタ」 Wホース振り回し

JK「ギヤーッ!?ギヤーッ!?」 Wホースの餌食に

全「……ってコラああああああああ!!??」

弦太朗「シャウタギターーッ!？」

賢吾「オーズに謝ってこい!今すぐ!!」

弦太朗「これが噂の……ホースムチ……か」

ソウジ「これが……」

シンジ「マジかよ」

賢吾「いやホースはホースだからな？」

弦太朗「いや、なんか溜めて言った方がかつこいいかと……」

カズマ「そっちの問題なんだ……」

シヨウイチ「というか相変わらずネーミングセンスないな!？」

オーズ?シャウタ「ウナギムチ!」

シンジ「ホースムチ!」

シャウタ?シンジ「Wムチでダブルタッチ!!さあ、誰か跳べ!

!」 光速ダブルタッチ

全「……って無理だああああああ!!??」

ユウスケ「はっ速すぎて見えない!!」

シヨウイチ「ウナギムチがバチバチいつてるぞ!？シンジ、おま、

よく感電しないな!？」

シンジ「うーん……気合い?」

賢吾「何でも気合いで解決できると思うなよ!？」

ソウジ「ちなみにシャウタとシンジは、右手にムチを装備、左手で相手のムチを持ってダブルタッチをしているぞ」

士「どーでもよくないか？それ」

アスム「……というかそのシャウタ誰ですか……？」

シャウタ「あ、やばい。クスクシエの仕事が……」

液化化&離脱

カズマ「……帰ったああああああ！！??」

士「今の確実に映司だよな……？」

美羽「ええおそらく」

ユウキ「クスクシエって言ってたもんね！」

ユウスケ「うん、もう気にしないようにしよう！」

ワタル「……………じゃあ、プロペラスイッチなんてどうですか？」

弦太朗「プロペラスイッチ？」

シンジ「プロペラって……………あのプロペラ？」

ソウジ「ああ、あの……………プロペラだろうな」

賢吾「いや、もうそのネタいいから」

ワタル「あのー説明してもいいですか？」

美羽「ええいいわよ？」

ワタル「（なんで上から目線？）えっと……………プロペラスイッチは、

左手にプロペラを装備してそれを回転させて風を起こして相手を吹っ飛ばすことができます」

シヨウイチ「……………なんか今までで一番期待できそうなスイッチだ」

カズマ「……………なんか泣けてきた」

ワタル「なんでですかっ!?!」

シンジ「でもさ、プロペラって……………ほら、タケコプター! (某青狸口調)」 換気扇のプロペラ頭のせ

全「……………コラアアアアアアアアアアアア!?!?!?!」

賢吾「それどこでとってきたあああああ!?!?!?!」

カズマ「シンジ自重!?!」

士「なんかスイッチ案全部シンジがダメにしているような……………」

ユウキ「あとさ! プロペラで相手を殴ったりしたらさ、相手が切り

刻ま……………」

賢吾「ストーーーーーッブ!?!?! 何言っているんだ君はあああ!?!?!」

カズマ「本当にお願いですから、正規の扱い方で扱ってください……………」

弦太郎「結論：作者の脳内スペックでは残りのスイッチが予測できない」

賢吾「オイ」

アスム「でも、本当に残りのスイッチってどんなのが出てくるんでしょうかね？」

ソウジ「それは、フォーゼの本編でのお楽しみだな」

シンジ「さっきの中で出てきたらすごいと思う」

カズマ「たぶんそれはない」

士「俺的にはライダースイッチができないことを祈る！」

ユウスケ「本当にお前のだな」

弦太郎「では、本日はここまで！」

ユウキ「なにかおもしろいスイッチがあったら教えてください！」

美羽「感想、指摘もよろしくね」

隼「ちなみに次回は未定だ」

JK「ちよつ、俺なにもすることない!？」

全「」では、さよーならー！！！」「」

#### 4話 使・用・注・意（後書き）

どうも更新が遅くなりました。というかこれから受験勉強のためこれ以上遅くなる可能性があります。すみません。

今回は、リマジ参加のスイッチ予想！といいながらも相変わらずの力オスですがw w。

大体のことは仮面ライダー部の面々が言ってくれたのでここでは省略いたします。

とりあえずコレだけは……感想、指摘をよろしくお願いします！では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4804x/>

---

友達ライダー！～来たれ！仮面ライダー部！～

2011年11月17日12時43分発行